

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1672100144
法人名	医療法人社団 修和会
事業所名	グループホーム葵の園・かいによ
所在地	富山県南砺市天池字二番野島1555-3
自己評価作成日	令和 3年 11月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

○小さいけれども畑があり、入居者には草むしりや収穫など出来る事を手伝ってもらっている。散歩のコースにもなっているので、作物の成長を観察したりもしている。
 ○季節の花を植えて窓越しに眺めたり、花を見ながら日向ぼっこをし、談笑している。
 ○毎日3食、入居者に手伝ってもらい手作りで提供している。畑で収穫があれば、その野菜を使ったりもしている。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人の理念『和顔愛語』を掲げ、利用者のペースに合わせて穏やかに家庭的な雰囲気支援するよう心掛けている。コロナ禍で行動が制限されている中でも、花見ドライブに出掛けて地域との交流を図っている。食事は、職員が献立・調理し地域の味を出している。また、利用者と一緒に地産の干し柿作りや手作りおやつで作る・食べる楽しみが得られるよう努力している。玄関フロアの廊下には行事の時の利用者の写真（A4版）が貼られ利用者の楽しむ様子を見ることができ、思い出を大切に支援している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月14日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は玄関に掲示し、誰もがみられるようにしている。本人、家族、職員、地域が一体となり普通の日々・暮らしを送られるように支援している。	理念については年度末に職員間で検討し、昨年度に引き続き『和顔愛語』を掲げ、玄関・事務所兼職員の休憩室に掲示し、その都度確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	最近の約2年間はコロナ禍により外との交流は自粛しているが、目標としては、買い物に出かけたり、近所の方との交流(挨拶や声掛け)、ボランティアの受け入れ等積極的に取り組んでいきたい。	職員が近所のスーパーへ買い物に出掛けたり、福野高校福祉課の実習生の受け入れを行った。また、コロナ禍の中でも、以前のようにボランティアの方々に来て頂けるよう依頼している所であり、地域の方との関係性を継続する努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来であれば常時、見学や研修、ボランティアの受け入れをしているが、コロナ禍によりここ数年は自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区自治会長、市職員、民生委員、地域包括職員、家族や職員が参加し活動状況・改善策の報告を行い、そこでの意見を取り入れている。ここ数年は、コロナ禍で書面でのやり取りとなっている。	コロナ禍の為、開催はできていないが、活動状況や事故報告等を書面にて自治会長・民生委員・家族等に2カ月に1回郵送し事業所の現状を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ここ数年はコロナ禍で書面での対応にとどまっているが、通常は運営推進会議への出席を積極的に依頼。会議を通して意見交換、情報交換を行っている。	11月に市が主催するグループホーム連絡研修会に参加し、事故報告の再発防止やコロナ禍の中での対応等の情報共有を行い市町村との関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者個人の自由・尊厳を重んじ身体拘束は行わず、一人ひとりにあったケアを行うよう話し合っている。ケアミーティングでも定期的に拘束をしない事の確認をし、法人内の勉強会への参加もしている。	法人全体で月1回勉強会が行われており、7月に『身体拘束ゼロについて』の勉強会を開催。今回は1月に開催予定である。勉強会に参加できなかった職員には資料を配布し参加した職員から伝達を受け情報共有している。	グループホーム単体で身体拘束廃止委員会を設置し、委員会の定期的な開催に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や市が行う研修会への参加。またミーティングにより高齢者虐待防止法に関する理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での勉強会に参加し学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に理解を得られるように説明している。料金表に“実費”記載の項目(おむつ代や理容美容代など)に関しては、変更、新規に利用する際の家族への説明は、その都度行い理解を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者や家族が職員に対して何でも言える環境づくりに努めている。	意見書、意見箱は事務所カウンターに設置してあるが、口頭が多く、家族から出された意見や要望については、連絡帳に記載し、申し送り時に伝達し情報共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを行い意見や提案を聞き解決策を話し合う場を月に1回、必要であればその都度設けている。	月1回グループホーム内でミーティングを実施。年末には自己評価を行い、管理者との個人面談を実施しており利用者への関わりのアドバイスや職員からの意見や要望等を聞く機会を設けている。面談にて施設の修繕についての要望を受け、法人へ相談した事で環境整備に繋がったケースがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得をサポートし、自己研鑽しやすいように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修、報告会に参加している。また外部の研修など提示している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し交流を行いサービスの向上に努めている。現在はコロナ禍により連絡会は中止となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接や事前訪問などを行い生活状況を把握して本人の心配や不安などを聞く機会を持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接などで家族の求めていること、困りごとなど聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や事前面接時に本人や家族の思いを聞き、状況を確認した上で、事業所として可能な限り対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であることを忘れずに接している。また、共に生活する家族として接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時(ここ数年はコロナ禍の為、受診時や依頼したものを持参された時)に日頃の様子を伝えている。状況によっては、こちらから在宅時の様子を聞いたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の来訪で継続的な交流ができるように努めていたが、ここ数年のコロナ禍で積極的な支援はできない状況である。	コロナ禍の為、施設内での面会を禁止しているが、家族や友人が来られた時は窓越しで面会して頂いている。馴染みの方との関係継続の為、年賀状のやり取りや電話の取次がスムーズに行われるよう支援している。また、利用者の一人は携帯電話を使用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間や、気の合う人同士で過ごす機会を作ったりしている。コミュニケーションの取りにくい利用者には、職員が仲介し話し合ったりできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた場合、情報交換を行ったり、職員が訪問に行ったりと支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を聞き出し、その人らしく暮らせるように支援している。聞き取り困難な場合は家族から情報を得てこれまでの生活を把握し、可能な限りこれまでと同じような生活ができるように支援している。	契約時や利用前に家族から生活歴等を聞き取り、本人の思いや希望等の把握に努めている。職員は日々の生活の中の言動から思いを把握し口頭にて職員間で情報共有している。	利用者の日々の生活の中の言動から把握した思いや意向を記録に残し、職員間で情報共有される事に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時などに家族、担当ケアマネジャーからこれまでの暮らしの様子やサービスの利用経過などについて聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のできる事や好きなことを多く見つけるように職員一人ひとりが努力し、得た情報は職員全員で共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画のモニタリング時には本人、家族から十分に意見を聞き、話し合っている。その人らしい生活ができるように支援するよう努めている。	3カ月に1回モニタリングを実施し、カンファレンスを開催。職員ミーティングや担当職員から出された意見を踏まえケアマネジャーが内容の見直しを行った上でケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の身体、心身の変化は個々毎に記録している。折に触れ、ケア方法の検討を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前から本人の状態や家族の意向に配慮しながら外出、外泊などの声掛けを行っているが、ここ数年はコロナ禍により行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族様協力のもとに個々の主治医への受診、数か月毎の行きつけだった理美容院の利用などがあげられますが、ここ数年はコロナ禍で地域とのつながりが減少しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が選択された医療機関への受診となっている。基本的には家族様に受診の付き添いをお願いしているが、状況によっては職員が同行する場合や、書面での報告も行っている。	9名中7名が在宅からのかかりつけ医を継続(2名は月1回往診対応)、定期受診については、基本的に家族が付き添いを行い、医療情報については口頭で伝達している。職員同行時は医療情報を書面で渡す事もある。ドクターからは返書で指示を受け、記録に残し職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、入居者の健康状態、状況変化に対応できるような体制を取り支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と情報交換しながら入院先の病院への訪問を行い病院関係者と連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する事業所のできる事を十分に説明しながら方針を共有している。	看取りは行っておらず、重度化及び看取りの為の措置については重要事項説明書で説明し同意を得ている。緊急時については、法人の看護師に連絡し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て応急手当や蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づいた避難訓練を隣接する事業所の協力を得て年2回(日勤帯と夜勤帯)行っている。	コロナ禍で消防の立ち合いは行わず、年2回の災害時(日中、夜間想定)の訓練を法人合同で実施。ハザードマップの確認、職員間での避難手順や消火器等の使用方法の確認を行った。また、法人には備蓄品も保管されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングや日々のかかわりの中で入居者一人ひとりの尊厳を守ることに意識向上を促している。	排泄介助の際、トイレのドアの開閉や、食堂に面したトイレでの介助時に他の方に見えないように配慮した支援を行っている。また、日々の生活の中でスピーチロックや否定的な言葉掛けが見られた時は職員同士で指摘している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるのではなく、自分の思ったことや自分で決めたことを言えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが“入居者が主人公”とし、生活リズム、ペース、体調、希望に合わせた柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室やトイレに洗面台・鏡があり、入居者自身が身だしなみを整えられるような環境を作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍により制限される部分はあるが食事の準備・調理を一緒に行っている。食事は職員と一緒にとり、話題提供するなど和やかで家庭的な雰囲気づくりを心がけている。片付けも一緒に行っている。	食材はスーパーで購入し、食事当番が献立を立て提供している。利用者と一緒に食事の下準備や、当番制での茶碗拭き等を行っている。また、行事食として、いとこ煮・雑煮・ぶり焼き等を提供したり、利用者の希望を考慮して誕生日には手作りおやつ(ホットケーキやおはぎ等)を食べる事で、コロナ禍の中でも作る・食べる楽しみが得られるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に対応できるようにトロミ剤やゼリーを常時準備している。隣接事業所の管理栄養士に専門的な助言をもらったり、メニュー表にコメントを記入し意見をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを勧めている。声掛けや見守り、介助等で入居者全員が口腔ケアを行うよう支援している。週に1度義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつチェック表を使用し時間を見計らってトイレ誘導しトイレでの排泄を促している。また、誘導した際、職員は裏口から入るなど、さりげなく支援するように努めている。	布パンツ使用の方が3名、他の方は紙パンツを使用している。排泄チェック表をもとに昼夜問わず一人ひとりの排泄パターンを把握し個々に合わせた声掛けの仕方について職員間で留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつチェック表を使用し排便の状況を把握している。水分を充分摂ることやなるべく多くの野菜(根菜類)を使った食事の提供を心がけている。散歩(雨天時は棟内歩行)も日々の日課としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調や気分に合わせて介助している。入浴は1対1で行っている。	週2回、月・火・金・土の午前中を基本に4、5人に分けて入浴している。入浴時に足湯をしながら洗身、洗髪を行い、身体が冷えないよう配慮した支援をしている。また季節に合わせて入浴剤や柚子を入れる事で入浴を楽しむ工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望を見聞きし、なるべく日中は散歩やレクリエーションなどを促し、活動的に過ごすように支援している。自宅で使用していた寝具(毛布やパジャマなど)を持ち込んでもらい心地よく安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を把握できるように入居者各自のカルテ内に整理して、いつでも確認できるようにしている。与薬時には3度の確認、飲み込み確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした役割を入居者それぞれにもってもらったり調理補助、片付けなど入居者が個性を發揮できる場面づくりを心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調に応じて散歩に出ている。コロナ禍以前は食材の買い出しや地域行事の見学などに出かけていた。	天気の良い日には敷地内や近所への散歩に出掛けている。混雑しない日時を選び瑞泉寺や庄川大仏、コスモスやチューリップ、桜など季節の花見ドライブに出掛ける事でコロナ禍の中でも外出する機会を作る努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍以前は食材買い出し時、スーパーへ行っただけに希望を聞いて支援していた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば電話できるよう支援している。手紙のやり取りも、家族様に連絡し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中食堂で過ごす時間が多いので、食堂の窓から外を見た時に季節を感じられるように花を植えたり、食器棚も家庭的なものを使ったりしている。照明も外の明るさに合わせて明るさを切り替えられるようになっている。	フロアを中心に3方向に居室が連なっており、リビングの大きな窓からは庭の植え込みやプランターに植えてある花やウッドデッキが見え、季節の移ろいを感じられるような環境になっている。段差を付けた畳スペースがあり、TVと手作りの作品やカレンダーが置かれ、利用者はそれぞれのテーブル席で過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を設け一人で外を眺めたり、日向ぼっこができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具など持ち込まれることを勧め、それぞれに合った馴染みやすい居場所となるよう支援している。	フローリングの居室が7部屋、畳の居室が2部屋あり、各居室にはベッド・エアコン・洗面所・クローゼットが備えられている。愛用していた家具やテレビ等が配置され、入口にはのれんや作品が飾られていた。整頓され、居心地の良さや動線に配慮した居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの状態に合わせて手すりや椅子を置き自立した生活を送れるように支援している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 葵の園・かいによ

作成日：令和 4 年 1 月 11 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	グループホーム単体で身体拘束委員会を設置し、委員会を定期的に開催すること。	法人の身体拘束委員会に新たにグループホームを加え合同開催とする。 委員会への参加と施設方針でもある身体拘束をしない介護の継続。 グループホーム職員での情報の共有と意思統一。	法人の身体拘束委員会の積極的な参加。グループホーム入居者に対して身体拘束をしない介護を継続して行くために、合同開催の利点である幅広い職員からの意見をいただき、実践に役立てていく。 ミーティングや申し送り時等に委員会の情報を各職員に報告、周知徹底を図る。 勉強会や委員会を活用し身体拘束に関する知識や理解をグループホーム職員間で深めていく為にミーティングの一議題としても定期的に取り上げていく。	6ヶ月
2	23	入居者一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努めているが、職員間での情報伝達方法は口頭によるものであった。	職員への伝達手段、情報共有方法の改善。 入居者に関して、暮らし方の希望や意向等を見聞きしたり気づいた場合には、記録に残すようにする。	全体ミーティングで職員に入居者に関することは記録するよう伝える。 介護記録や連絡帳に記録していき、各入居者の希望や意向を職員間で共有し日々のケアに活かしていくよう努める。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。